

2021 年度 研究所事業報告書

研究所名	国際言語文化研究所
------	-----------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5ヵ年)および2020年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなってできるだけわかりやすく記述してください。なお、2020年度に採択を受けた研究所重点プロジェクトの実績報告は、書式Bに記述のうえ提出してください。

国際言語文化研究所(以下、当研究所)は、研究所重点プログラム、研究所独自の萌芽的研究助成プログラム、研究所企画講演会・シンポジウムに、多くの若手研究者を巻き込みながら年度を通して遂行し、研究成果を学術論文・書籍や研究所紀要として発信してきた。

当研究所では、2016年度開始の5つの研究所重点プログラムが同時並行で進行してきており、2021年度は最終年度であった。2021年度、参画した研究者は、学内外の研究者154名であったが、そのうち学内の若手研究者は、およそ3分の1にあたる46名であった。研究成果は、著書27点、論文53点、研究発表等46点と多彩な分野で多くの業績をあげることができた。加えて、土曜講座の担当や新聞などのメディアでの発表などの活動も行い、研究成果の社会への還元にも努めた。

当研究所の紀要は、2021年度、『立命館言語文化研究』(33巻)を3号刊行した。研究所の各重点プログラムや萌芽研究の成果報告論文に加え、厳格な審査に通った個別論文が発表された。さらに、2020年度において研究所重点プロジェクト参加の若手研究者を含むリレー講座が実施されたが、その成果も2021年度の『立命館言語文化研究』(33巻3号)で発表された。

当研究所が主催する連続講座としては、「2021年度 国際言語文化研究所連続講座 “病、との接触——災厄を記憶する」をZoomで開催した(2021年10月)。後述の通り、2022年度から重点プロジェクトの数を絞る検討の一環として、A1プロジェクト「文化の移動と紛争的インターフェイス」とA3プロジェクト「ヴァナキュラー文化研究会」が合同で企画を立て、全4回に亘る講座を行った。この作業により、プロジェクトが相互に乗り入れる協同体制の足がかりを築くことができたことは有意義であった。

加えて、各重点プロジェクトが公開で行う講演会・シンポジウムも頻繁に開催された。前年度(2020年度)、コロナ禍のため実現できなかった対面による講演会なども一部、安全に配慮しながら対面で開催した。また対面実施を控えた多くの講演会・シンポジウムも、ZOOMによるオンライン配信を活用したことで、遠方の一般参加者にも聴講の機会を提供することができた。その成果の多くは2022年度の『立命館言語文化研究』(34巻)誌上で発表される予定である。

例年通り、若手研究者の養成にも努めてきた。研究所重点プログラムでは、共同研究や研究会・シンポジウム開催を通して、(国際的)研究成果発信・マネジメント・研究者ネットワーク構築の面で、経験豊かな研究者がメンターとしての役割を果たすように留意してきた。このような日常的な若手研究者への支援が実り、任期付き教員から他大学の任期の定めのない専任講師に就職が叶った事例を含め、若手研究者の育成にも大きな成果をあげることができた。

2021年度までは重点プロジェクトが5つ行われてきたが、やや乱立気味であったため可能な限り相互乗り入れをする方途を探り、慎重な検討・審議の結果、2022年度以降の研究所の重点プロジェクトを2本に絞ることができたことは、重点プロジェクト遂行計画上の大きな収穫であり、2022年度以降は、相乗効果による更なる研究の深化が期待される。

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2022年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位
研究所長・センター長	田浦秀幸	言語教育情報研究科	教授
運営委員	有田節子	言語教育情報研究科	教授
	ウェルズ恵子	文学部	教授
	小川真和子	文学部	教授
	河原典史	文学部	教授
	岸政彦	先端総合学術研究科	教授
	KIM, Wooja	国際関係学部	准教授
	坂下史子	文学部	教授
	住田翔子	産業社会学部	准教授
	高橋秀寿	文学部	教授
	滝沢直宏	言語教育情報研究科	教授
	土肥秀行	文学部	教授
	内藤由直	文学部	教授
	中川成美	文学部	特任教授
	仲間裕子	産業社会学部	特任教授
	中村仁美	文学部	准教授
	西成彦	先端総合学術研究科	特任教授
	西林孝浩	文学部	教授
	南川文里	国際関係学部	教授
	吉田恭子	文学部	教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	安保寛尚	法学部	准教授
	鶴野祐介	文学部	教授
	岡田桂	産業社会学部	教授
	岡本広毅	文学部	准教授
	小川さやか	先端総合学術研究科	教授
	加國尚志	文学部	教授
	片桐葵	言語教育センター	外国語嘱託講師
	加藤政洋	文学部	教授
	川端美季	衣笠総合研究機構 生存学研究所	特別招聘研究教員 (准教授)
	KIM, Wachutka Jackie	言語教育センター	外国語嘱託講師
	KIM, Sungeun	立命館グローバル・イノベーション 研究機構	助教
	坂本利子	産業社会学部	特任教授
	崎山政毅	文学部	教授
竹中悠美	先端総合学術研究科	教授	

	TAILLANDIER, Denis	国際関係学部	准教授
	TERROSI, Robert	言語教育センター	外国語嘱託講師
	鳥山純子	国際関係学部	准教授
	中本真生子	国際関係学部	准教授
	二宮周平	法学部	特任教授
	平田裕	言語教育情報研究科	教授
	細谷亨	経済学部	准教授
	松田佑治	言語教育センター	外国語嘱託講師
	松本克美	法務研究科	教授
	三須祐介	文学部	教授
	柳原恵	産業社会学部	准教授
	RAJKAI, Zsombor Tibor	国際関係学部	教授
① 専門研究員 研究員 初任研究員	栗山雄佑	文学研究科	初任研究員
② リサーチアシスタント			
③ 大学院生	浅山太一	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	後山剛毅	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	荒木健哉	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	有馬恵子	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	安藤陽平	文学研究科	博士課程後期課程
	猪熊慶祐	文学研究科	博士課程後期課程
	今里基	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	岩本知恵	文学研究科	博士課程後期課程
	OUYANG, Shanshan	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	小田英里	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	KAHRIMAN, Sami Can	文学研究科	博士課程後期課程
	CAI, Yichun	言語教育情報研究科	修士課程
	柏尾有祐	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	木下さき	文学研究科	博士課程前期課程
	KIM, Ikkyon	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	KIM, Seungyeon	文学研究科	博士課程後期課程
	佐々木亮	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	佐竹郁哉	言語教育情報研究科	修士課程
	柴田淳朗	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	ZHAO, Wuyang	言語教育情報研究科	修士課程
	XIAO, Chenyan	文学研究科	博士課程後期課程
	竹松未結希	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	CHEN, Yan	言語教育情報研究科	修士課程
	ZHANG, Xian	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	ZHANG, Yuxuan	言語教育情報研究科	修士課程
	西岡知香	先端総合学術研究科	一貫制博士課程

学内の若手研究者

		野村緒美	文学研究科	博士課程前期課程
		橋本真佐子	先端総合学術研究科	一貫制博士課程 (休学)
		FANG, Peiyao	言語教育情報研究科	修士課程
		福田浩久	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		藤本流位	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		古谷やす子	文学研究科	博士課程後期課程
		平安名萌恵	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		三木菜緒美	文学研究科	博士課程後期課程
		宮田絵里	文学研究科	博士課程後期課程
		森祐香里	文学研究科	博士課程後期課程
		八木達祐	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		山崎遼	文学研究科	博士課程後期課程
		LIU, Xinyue	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		LI, Sihang	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		LU, Jingyang	文学研究科	博士課程後期課程
		ROH, Hwi Jeung	文学研究科	博士課程後期課程
		鷺尾渉	文学研究科	博士課程前期課程
④ 日本学術振興会特別 研究員(PD・RPD)		阪本佳郎	立命館大学	学振特別研究員 (PD)
		BOVA, Elio	立命館大学	学振外国人特別研究員
その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研究 生、研修生等)		池田啓悟	文学部	非常勤講師
		木下昭	国際関係学部	非常勤講師
		佐藤量	先端総合学術研究科	非常勤講師
		SGARBI, Federica	文学部	授業担当講師 客員協力研究員
		武田悠希	文学部	授業担当講師
		田中壮泰	文学部	授業担当講師 客員協力研究員
		西脇幸太	言語教育情報研究科	授業担当講師
		FABBRETTI, Matteo	文学部	授業担当講師 客員協力研究員
		山本真紗子	文学部	授業担当講師
客員協力研究員		磯部直希	多摩美術大学	非常勤講師
		大野藍梨	国際言語文化研究所	客員研究員
		海寶康臣	九州歯科大学	講師
		加藤昌弘	名城大学	准教授
		島田龍	人文科学研究所	客員研究員
		鳥木圭太	国際言語文化研究所	客員研究員
		中井祐希	龍谷大学	非常勤講師
		仲間絢	東京藝術大学	学振特別研究員 (PD)
		中村雪子	立命館大学アジア・日本研究所	客員研究員

	西山淳子	和歌山大学	准教授
	長谷川唯	生存学研究所	客員研究員
	姫岡とし子	東京大学	名誉教授
	FARNE, Federico	ボローニャ大学	非常勤講師
	宮下和子	鹿屋体育大学 放送大学	名誉教授 非常勤講師
その他の学外者	飯塚隆藤	近畿大学	准教授
	池内靖子	立命館大学	名誉教授
	石田智恵	早稲田大学	常勤講師
	泉谷瞬	大谷大学	任期制講師
	岩川ありさ	早稲田大学文学学術院	准教授
	上野千鶴子	東京大学 認定 NPO 法人ウイメンズアクションネットワーク(WAN)	名誉教授 理事長
	大澤真幸	麗澤大学	客員教授
	大谷通高	大学共同利用機関法人 総合地球環境学研究所 人間文化研究機構	研究推進員
	大辻都	京都造形芸術大学	教授
	岡野八代	同志社大学グローバル・スタディーズ研究科	教授
	木村朗子	津田塾大学学芸学部	教授
	久野量一	東京外国語大学	教授
	後藤玲子	一橋大学	教授
	佐久間香子	東北学院大学	講師
	佐久間寛	東京外国語大学 AA 研	特任研究員
	櫻井悟史	滋賀県立大学	准教授
	佐々木ボグナ	京都大学	非常勤講師
	孫美幸	文教大学	准教授
	田所辰之助	日本大学	教授
	ZHUANG, Jiechun	惠州学院(中国)	専任教員
	寺尾智史	一橋大学	教授
	友田義行	甲南大学	准教授
	中村隆之	早稲田大学	准教授
	西井麻里奈	大阪大学	助教
	野村真理	金沢大学	名誉教授
	原佑介	金沢大学	准教授
	番匠健一	同志社大学	研究員
	FASSBENDER, Isabel	同志社女子大学国際教養学科	助教
	BELLECH, Chloec	東北大学言語文化教育センター	講師
	BOHR, Marco	ノッティンガム・トレント大学	准教授

	堀江有里	公益財団法人世界人権問題研究センター	専任研究員
	三木順子	京都工芸繊維大学	准教授
	湊圭史	松山大学	教授
	村田裕和	北海道教育大学旭川校	准教授
	山口真紀	神戸学院大学 全学教育推進機構	特任講師
	YANG, Insil	岩手大学	准教授
	禰美智章	追手門学院大学	講師
	LIONG, Mario	国立台北大学社会学部	准教授
	WANG, Yang		独立研究者

研究所・センター構成員 計 154 名 (うち学内の若手研究者 計 46 名)

Ⅲ. 研究業績 (公開項目) ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2022年3月31日時点)
また、書式Bの研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	西成彦	声の文学／出来事から人間の言葉へ	単著	2021年12月	新曜社		pp.1-268
2	西成彦・中川成美	旅する日本語／方法としての外地巡礼	共編著	2022年3月	松籟社		pp.305-339
3	西成彦	ホロコーストとヒロシマ	共著	2021年12月	みずぎ書房	加藤有子編	pp.277-307
4	西成彦・原佑介	帝国のはざまを生きる	共著	2022年4月	みずぎ書林	蘭信三・原佑介編	pp.169-179、241-264、377-389
5	NAKAMURA, Takayuki・SAKUMA, Yutaka	<i>Présence africaine : Vers de nouvelles perspectives politiques et culturelles: Identités, mémoires, résistances entre l'Afrique, l'Europe et les Amériques de la colonisation à la post-colonie</i>	共編著	2021年	Histoire & Anthropologie (France)	Aggée Célestin Lomo Myazhiom	pp.1-412
6	SAKUMA, Yutaka	<i>Index de Présence Africaine par auteurs (1947-2016)</i>	単著	2021年6月	Présence Africaine		pp.1-535
7	TERAO, Satoshi	Dynamism in African languages and literature : towards conceptualisation of African potentials	共著	2021年4月	Langaa RPCIG, Cameroon	竹村景子, Nyamnjoh, Francis B	pp.47-67
8	中村隆之	オレリア・ミシェル著 『黒人と白人の世界史』	共著	2021年10月	明石書店	児玉しおり(訳)	解説(pp.331-343)担当
9	中村隆之	アラン・マバンク著 『アフリカ文学講義』	共著	2022年1月	みずぎ書房	福島亮(共訳)	全280頁
10	NAKAGAWA, Shigemi・NAITO, Yoshitada	Tenkō: Cultures of Political Conversion in Transwar Japan	共著	2021年6月	Routledge	Edited by, Irena Hayter, George T. Sipos, Mark B. Williams	pp.87-100、137-148
11	加藤一誠・河原典史(監修・執筆)	日本あっちこっち―「データ+地図」で読み解く地域のすがた―	共著	2021年8月	清水書院	飯塚公藤(執筆・編集)、河原和之(執筆・編集)	pp.1-144
12	河原典史・大原関一浩	移民の衣食住 I―海を渡って何を食べるのか―	共編著	2022年3月	文理閣		pp.1-277
13	滝沢直宏	「新たな視点から見た one's way 構文」『言語の本質を共時的・通時的に探る―大室剛志教授退職記念論文集―』	共著	2022年3月	開拓社	田中智之・茨木正志郎・松元洋介・杉浦克哉・玉田貴裕・近藤亮一(編)	pp.26-38
14	西脇幸太	「提案・勧誘を表す what do you say の表現パターンと優先規則	共著	2022年3月	開拓社	田中智之・茨木正志郎・松元洋介・杉浦克	pp.65-77

		体系『言語の本質を共時的・通時的に探る—大室剛志教授退職記念論文集—』				哉・玉田貴裕・近藤亮一(編)	
15	坂下史子	よくわかるアメリカの歴史	共著	2021年6月	ミネルヴァ書房	梅崎透・坂下史子・宮田伊知郎編著、小田悠生、今野裕子、鈴木周太郎、高田馨里、土屋和代、土屋智子、野口久美子、久野愛、藤永康政、丸山雄生、鰐淵秀一	pp.i-ii、34-35、48-49、52-53、72-73、86-87、114-115、176-180
16	湊圭史	大学的オーストラリアガイド—こだわりの歩き方	共著	2021年6月	昭和堂	鎌田真弓編	pp.164-168
17	猪熊慶祐	ハーレム・ルネッサンス:〈ニュー・ニグロ〉の文化社会批判	共著	2021年8月	明石書店	深瀬有希子、中垣恒太郎、常山菜穂子編	pp.582-595
18	猪熊慶祐	ヒューマン・スタディーズ 世界で語る/世界に語る	共著	2022年3月	集広舎	神本秀爾、河野世莉奈、宮本聡 編	pp.154-168
19	KIM, Wooja	『レイシズムを考える』(担当箇所:第1章「日常をとりまくレイシズム」)	共著	2021年5月	共和国	清原悠編、共著者:明戸隆浩、安部彰、伊藤昌亮、遠藤正敬、兼子歩、金友子、清原悠、小林・ハッサル・柔子、五味淵典嗣、澤佳成、隅田聡一郎、高史明、竹田恵子、堀田義太郎、松本卓也、間庭大祐、百木漠、山崎望、山本興正、山本浩貴、梁英聖	pp.29-53
20	堀江有里	クィア・スタディーズをひらく2——結婚、家族、労働	共編著	2022年3月	晃洋書房	共編者:菊地夏野、飯野由里子	pp.167-199
21	堀江有里	令和から共和へ——天皇制不要論	共著	2022年3月	同時代社	堀内哲編著	pp.229-259
22	OKADA, Kei	<i>The Olympics and Sexual Politics: Changes in Sexual Minorities Policies and Homo-Nationalism in the Lead-Up to Tokyo 2020</i> in Challenging Olympic Narratives: Japan, the Olympic Games and Tokyo 2020/21.	共著	2021年10月	Ergon-Verlag	Andreas Niehaus, Kotaro Yabu 編著	pp.247-267
23	鳥山純子	「私らしさ」の民族誌:現代エジプトの女性、格差、欲望	単著	2022年3月	春風社		全432頁
24	山本真紗子	西川祐信『正徳ひな形』—影印・注釈・研究—	共著	2022年2月	臨川書店	石上阿希・加茂瑞徳編	「友禪染」ほか、「友禪染」(p.121)、影印・翻訳・注釈 (pp.103-108、149-154、201-203、211-213、277-282、326-331)
25	仲間裕子	フーゴ・フォン・チューデー—ドイツ美術のモダニズム	単著	2022年3月	水声社		全252頁
26	仲間絢	『雅歌』の花嫁神秘主義とバンベルク大聖堂彫刻群	単著	2022年2月	三元社		全225頁
27	住田翔子	バルクーレと都市:トレイサーのエスノグラフィ	共著(翻訳)	2022年3月	ミネルヴァ書房	市井吉興・住田翔子・平石貴士監訳	日本語版への序文・謝辞・第4章・付録A

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	西成彦	死者は生者のなかに⑤見れるものなら見てごらん	単著	2021年4月	『みすず』702号		pp.50-61	無
2	西成彦	死者は生者のなかに⑥女はゲッターを関係を結んで	単著	2021年6月	『みすず』704号		pp.34-47	無
3	西成彦	死者は生者のなかに⑦みんなは天使に変身ね	単著	2021年8月	『みすず』706号		pp.34-45	無

4	西成彦	死者は生者のなかに⑧なぜ彼らは羊のように	単著	2021年10月	『みすず』708号		pp.36-49	無
5	西成彦	死者は生者のなかに⑨狩人に追われて逃げまどう	単著	2021年12月	『みすず』710号		pp.14-27	無
6	西成彦	世界がゲッター化する時代に①ゲッターの子どもたち	単著	2022年2月	『現代詩手帖』		pp.140-143	無
7	NAKAMURA Takayuki	« Mémoire et esclavage chez Édouard Glissant », <i>L'Atlantique, machine à rêves ou cauchemar sans trêve ?</i> , sous la direction de Cécile Bertin-Elisabeth et Erick Noël,	単著	2021年9月	Éditions La Geste		pp.122-131	有
8	中村隆之	人種主義を克服するための世界史：『人間狩り』『黒人と白人の世界史』（明石書店）刊行を機に	共著	2021年12月	『週刊読書人』3418号	西谷修×平田周と鼎談	8面	無
9	河原典史	『諸国御客船帳』にみる近世の海運業－讃岐国栗島と若狭国早瀬をめぐる海上文化史－	単著	2021年	『IATSS Review』46-2		pp.105-112	有
10	TAURA, Hideyuki	Studying Abroad and its Effects on L2 Brain Structures	単著	2022年3月	<i>JAAL in JACET (Japan Association of Applied Linguistics in Japan Association of College English Teachers) Proceedings, 4</i>		pp.16-23	有
11	TAURA, Hideyuki	The Effect of Fetal Language Experiences upon a Neonate's Perception of L1, L2, and Music: A Preliminary fNIRS Study	共著	2021年11月	立命館言語文化研究 33巻2号	TAURA, Amanda	pp.209-217	有
12	董劍秋	在日中国人家庭児の継承語と日本語能力に関するケーススタディー：バイリンガリティーの観点から	共著	2021年7月	立命館言語文化研究 33巻1号	田浦秀幸	pp.185-208	有
13	石峇瑾	中国人日本語学習者の滞日期間の長さによる言語喪失・習得 fNIRS 研究：神経心理言語学的アプローチ	共著	2021年7月	立命館言語文化研究 33巻1号	田浦秀幸	pp.135-158	有
14	郭湘婷	中日英トライリンガルのリーディングメカニズム解明研究：構音抑制下における眼球運動に注目したケーススタディー	共著	2021年7月	立命館言語文化研究 33巻1号	田浦秀幸	pp.159-180	有
15	阮振恒	断りストラテジーの広東語とブロンファの方言差研究－親疎関係と上下関係による配慮の視点から	単著	2021年7月	立命館言語文化研究 33巻1号		pp.209-230	有
16	廣田恵美子	ベトナム人日本語学校生のモチベーションについて－マズローの欲求の階層を用いて	単著	2021年7月	立命館言語文化研究 33巻1号		pp.231-260	有
17	西脇幸太	仮定法の文の主語位置に生じる Not Doing So	単著	2021年11月	立命館言語文化研究 33巻2号		pp.271-282	有
18	滝沢直宏	修飾語句を伴わない「第1文型」について	単著	2021年11月	立命館言語文化研究 33巻2号		pp.243-254	有
19	西脇幸太	「感情を表す表現の理解を深める(連載「コミュニケーションにつながる文法指導」第2回)」	単著	2021年4月	『英語教育』第70巻第2号		pp.58-59	無
20	西脇幸太	「他者の立場で考える活動－仮定法過去を例に(連載「コミュニケーションにつながる文法指導」第3回)」	単著	2021年5月	『英語教育』第70巻第3号		pp.56-57	無
21	西脇幸太	「理由表現の型を生かした言語活動－partly because ..., partly because ..., but mainly because ... を例に(連載「コミュニケーションにつながる文法指導」第4回)」	単著	2021年6月	『英語教育』第70巻第4号		pp.58-59	無

22	西脇幸太	「表現力向上のために英文といかに向き合うか(連載「コミュニケーションにつながる文法指導」第5回)」	単著	2021年7月	『英語教育』第70巻第5号	pp.58-59	無
23	西脇幸太	「表現力向上のための振り返りとフィードバック(連載「コミュニケーションにつながる文法指導」第6回・最終回)」	単著	2021年8月	『英語教育』第70巻第7号	pp.50-51	無
24	西脇幸太	Form and Meaning of the <i>How about Let's VP Construction</i> : Through Comparison with <i>What about</i>	単著	2022年2月	JELS 39	pp.78-84	有
25	ウェルズ恵子	スティーブン・フォスター作品集に寄せて:世界の耳と心をつなぐリボンのような歌を	単著	2021年4月	Dear Friends and Gentle Hearts: The Songs of Stephen Foster, Railway Records	pp.34-37, pp.94-97	無
26	ウェルズ恵子	小特集「コロナ禍における通訳の現状と課題:コミュニケーションの本質と外国語使用および習得に関する洞察を求めて」 「趣旨と概要」	単著	2021年11月	立命館言語文化研究 33巻2号	pp.219-220	無
27	ウェルズ恵子	100年生きたラブソング:恋歌の系譜と1920-30年代ブロードウェイ・ミュージカルの歌詞	単著	2022年2月	立命館言語文化研究 33巻3号	pp.249-265	無
28	坂下史子	アメリカにおけるリンチをめぐる歴史認識の変遷	単著	2021年7月	『歴史学研究』1011号	pp.38-46, 66	無
29	鶴野祐介	五十嵐七重の語りを聴く—小野和子の民話探訪と「未来に向けた人類学」—	単著	2021年5月	『論業 うたとかたり』第3号、うたとかたりの研究会	pp.3-20	無
30	安保寛尚	キューバのブッフオ劇におけるヴァナキュラー言語、およびナショナリズムの発現	単著	2022年2月	立命館言語文化研究 33巻3号	pp.103-115	無
31	安保寛尚	植民地時代キューバの物語詩—キューバ人の人種的・文化的主体の表象の変遷について—	単著	2022年2月	立命館言語文化研究 33巻3号	pp.227-248	無
32	岡本広毅	中世の英語文学とヴァナキュラーとしての歩み—チョーサー、地方語、周縁性	単著	2022年2月	立命館言語文化研究 33巻3号	pp.175-187	無
33	加藤昌弘	〈書評〉奥野良和編著『地域から国民国家を問い直す:スコットランド、カタルーニャ、ウイグル、琉球・沖縄などを事例として』	単著	2021年10月	『カレドニア』49	pp.21-24	無
34	LU, Jingyang	『窓ぎわのトットちゃん』と『いたずら者馬小跳』の比較研究—アイデアとしての子ども・家庭・学校・社会—	単著	2021年5月	『論業 うたとかたり』第3号、うたとかたりの研究会	pp.129-140	無
35	LU, Jingyang	近代中国における「個性」及び「個性教育」の発展過程	単著	2021年7月	『東アジア教育研究』第12号、東アジア教育研究所	pp.23-35	有
36	LU, Jingyang	「全面発達」と「個性」の育成の関係性	単著	2022年1月	『東アジア教育研究』第13号、東アジア教育研究所	pp.24-43	有
37	松本克美	判例法理の形成と法解釈学の役割 —私の研究史を振り返る	単著	2022年3月	立命館法学 399・400号	pp.3193-3230	無
38	松本克美	民法 724 条の 20 年期間の起算点と損害の性質論—潜在型損害と顕在進行型損害の諸類型との関係で—	単著	2021年12月	立命館法学 398号	pp.1696-1714	無
39	松本克美	セクシュアル・ハラスメント被害の法心理	単著	2021年6月	立命館法学 395号	pp.210-239	無

40	RAJKAI, Zsombor Tibor	Family and Individualisation in Academic Discourse: An Ambiguous Relationship	単著	2022年3月	The Ritsumeikan Journal of International Studies 34(4)		pp.37-57	無
41	RAJKAI, Zsombor Tibor	The Role of Family in Modern China: A Blended Compressed Transformation of the Private and Public Spheres	単著	2021年12月	Journal of East Asian Cultures 13(1)		pp.241-254	有
42	堀江有里	日本社会でクィア神学する、ということ——国家・家族・市場、そして教会	単著	2021年12月	『福音と世界』新教出版社、76巻12号		pp.6-11	無
43	堀江有里	「オリンピックはどこにもいない！」——ダイバーシティ戦略批判と反五輪運動からの考察	単著	2022年3月	花園大学人権教育研究センター、『人権教育研究』、30号		pp.129-153	無
44	堀江有里	「関係」を規定するのは誰か？——(反婚)の視点から家族政策を問う	単著	2022年3月	奈良女子大学アジア・ジェンダー文化学センター、『アジア・ジェンダー文化学研究』、6号		pp.23-32	無
45	柳原恵	東北農村における性暴力：「艶笑譚」と地域女性史の聞き書きから	単著	2022年3月	総合女性史研究 = Annual reviews of women's history (39)		pp.91-94	無
46	柳原恵	フェミニズム以前のフェミニストたち：1950-60年代岩手女子青年たちの生活記録雑誌を読む	単著	2022年2月	立命館言語文化研究 33巻3号		pp.53-64	無
47	竹中悠美	日本のアートワールドにおける作品展示の位相	単著	2022年3月	『須田記念 視覚の現場』第6号、一般財団法人きょうと視覚文化振興財団		pp.23-25	無
48	高橋秀寿	書評「水野博子『戦後オーストリアにおける犠牲者ナショナリズム』」	単著	2021年8月	歴史学研究 3032年8月号		pp.61-64	無
49	磯部直希	仲座久雄と花ブロック—戦後沖縄におけるコンクリートブロック造の装飾的展開	単著	2022年2月	立命館言語文化研究 33巻3号		pp.1-11	無
50	磯部直希	寿岳文章の本づくりと思索の生成—『ブレイクとホキットマン』の製本技法再現の試み	単著	2022年3月	NPO法人向日庵、『向日庵』、5		pp.38-48	無
51	橋本真佐子	近代の東京の郊外—国木田独歩『武蔵野』から田中恭吉の詩歌と創作版画へ—	単著	2022年2月	立命館言語文化研究 33巻3号		pp.13-27	無
52	藤本流位	トーマス・ヒルシュホーンの《バタイユ・モニュメント》における暴力の再考	単著	2022年3月	第72回美学会全国大会 若手研究者フォーラム発表報告集	美学会	pp.141-151	有
53	住田翔子	パルクールと都市文化：都市のみかたとつかいかた	単著	2022年1月	立命館大学人文科学研究紀要 130		pp.29-47	無

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	西成彦	シンポジウム「二つの「世界文学」のあいだ——いま比較文学は何かができるのか」	2021年6月	日本比較文学会〔オンライン〕	企画・司会：源貴志、他のパネリスト：宗像和重、坂口周、コメント：中村三春
2	西成彦	特別講義「ラフカディオ・ハーンと浦島太郎」	2021年9月	熊本大学附属 漱石・八雲教育研究センター	
3	田中壮泰	ドヴィド・バルゲルソン「盲目」論—ポグロム以後の郷愁と性をめぐって	2022年2月	金沢大学「越境と郷愁」研究会	

4	寺尾智史	播州ことばから見つめる言語的マイノリティの周縁意識と多様性保持のストラテジー	2021年6月	第33回ひと・ことばフォーラム研究会「移動とメディアの言語的コンプレックス」	
5	寺尾智史	ヨーロッパ文学の中でのロマンス諸語言語多様性の語られ方	2021年5月	日本ロマンス語学会 第59回大会	
6	佐久間寛	趣旨説明 他者を信じ他者に負う：人類学から見る信用と負債の世界	2021年11月	日本文化人類学会公開シンポジウム「人類学からみる現代世界の信用と負債—「人間の経済」に向けて」オンライン開催	
7	佐久間寛	われわれは債務を返さない：トマ・サンカラの負債論	2021年5月	日本アフリカ学会第58回学術大会オンライン開催	
8	栗山雄佑	彷徨う言語の「責任」——星野智幸の作品をめぐる	2022年3月	第36回占領開拓期文化研究会、オンライン開催	
9	栗山雄佑	眼前の〈トラウマ〉に向けて——「戦後50年」の「沖縄」文学から	2021年10月	2021年度 国際言語文化研究所連続講座 “病”との接触——災厄を記憶する 第1回「戦争が残した傷・病」	
10	栗山雄佑	「野蛮」という性・暴力——津島佑子『あまりに野蛮な』が拓く視座	2021年4月	第159回立命館大学日本文学会研究例会	
11	TAURA, Hideyuki	Individual differences between two Japanese attriters of English in their English proficiency and brain activation: A six-year longitudinal fNIRS study	2022年3月	The 4th International Conference on Language Attrition, Southern Connecticut State University in USA (hybrid 参加)	
12	TAURA, Hideyuki	How Brain Activation Changes as One Becomes an Expert Interpreter: An fNIRS Study	2022年1月	The 21st Interpreting and Translation Research Institute (ITRI) International Conference, at Hankuk University of Foreign Studies in Korea (hybrid 参加)	
13	TAURA, Hideyuki	Impact of fetus language experiences exerted on a newborn baby: An fNIRS case study	2021年10月	Virtual fNIRS2021, Boston in USA (hybrid 参加)	
14	TAURA, Hideyuki	The ebb and flow of language proficiency and brain activation: A case study on a Japanese-English bilingual returnee	2021年7月	13th International Symposium on Bilingualism (ISB 13), University of Warsaw, Poland (hybrid 参加)	TAURA, Amanda
15	TAURA, Hideyuki	Studying Abroad and its Effects on L2 Brain Structures: 3 case studies	2021年12月	JAAL in JACET 2021 (hybrid 参加)	
16	松田佑治	have long V-ed 構文の典型例	2021年10月	英語コーパス学会第47回大会(Zoom)	
17	松田佑治	同等比較構文における as 節内の形容詞主語の語彙範疇 as happy as happy can be を事例に	2021年11月	日本英語学会第39回大会(Zoom)	
18	西脇幸太	How about let's VP 構文の形と意味: What about との比較を通して	2021年11月	日本英語学会第39回大会(Zoom)	
19	ウェルズ恵子	仮面とペルソナについて	2021年9月	ヴァナキュラー文化研究会仮面劇研究部会、衣笠キャンパス	
20	坂下史子	BLMの時代における人種暴力の記憶形成—遺産博物館と平和と正義の記念碑を中心に	2021年6月	アメリカ学会年次大会、オンライン	
21	鶴野祐介	日本のシンデレラ物語における〈あわい〉のイメージ	2021年9月	アジア民間説話学会第18回国際大会 中国・南京農業大学&オンライン	
22	鶴野祐介	戦争・飢饉・疫病を伝える子守唄・わらべうた	2021年10月	2021年度国際言語文化研究所連続講座	川島秀一、大平悦子
23	鶴野祐介	シリアの子守唄とわらべうた	2022年3月	ヴァナキュラー文化研究会 年次大会	ALMERE, Nahed, XIAO, Chenyan
24	鶴野祐介	『安珍清姫の唄』を歌い継いできた日本の少女たち	2022年3月	ヴァナキュラー文化研究会 年次大会	ALMERE, Nahed, XIAO, Chenyan
25	安保寛尚	植民地時代キューバの物語詩—『キューバ人』の人種的・文化的主体の表象の変遷について—	2022年3月	日本バラッド協会第13回会合、オンライン開催	
26	岡本広毅	中世ブリテン建国史における巨人族とストーンヘンジ建立—マーリン、記念碑、コロニアルな歴史	2021年11月	同志社大学—神教学際研究センター公開シンポジウム:「巨人」の場(トポス)、同志社大学	高井啓介・勝又悦子・大沼由布・林則仁

27	岡本広毅	アーサー王伝説の発展—歴史とファンタジーを巡って	2021年4月	2021年度 説話・伝承学会 春季大会	
28	猪熊慶祐	道化イアゴー:クリスティ・ミンストレルズの笑劇『オセロ』の笑い転覆	2021年4月	黒人研究学会、オンライン開催	
29	猪熊慶祐	都市生活を可視化する—クリスティーズミンストレルズの笑劇	2021年12月	モノ研究会、福岡	
30	LU, Jingyang	「全面的発達観」における「個性」と「個性教育」	2021年11月	第15回教育人間学会、立命館大学 衣笠キャンパス	
31	LU, Jingyang	『窓ぎわのトットちゃん』はなぜ中国で人気なのか—子ども・家庭・学校・社会の視覚から—	2021年12月	うたとかたりの研究会 2021年度12月例会、オンライン開催	
32	KAHRIMAN, Sami Can	Real Children as Stimuli in the Formation of the Divine Child Figure: A Reinvestigation in the Light of Blumenberg's Theory of Myth	2021年9月	18th Congress of the International Society for Folk Narrative Research (ISFNR)、オンライン開催	
33	KAHRIMAN, Sami Can	口承文芸に見られる子ども像の謎の究明—V.プロップの昔話研究を手掛かりに—	2021年11月	第15回教育人間学会、立命館大学衣笠キャンパス&オンライン	
34	XIAO, Chenyan	口承される電子ゲーム—中国における小学生の〈頭脳ゲーム〉に関する一考察—	2022年3月	ヴァナキュラー文化研究会 年次大会	ALMEREE, Nahed, XIAO, Chenyan
35	鷺尾 渉	映画『マスク』とゲーム『ペルソナ』—仮面と「本来の自己」との関係について	2022年3月	ヴァナキュラー文化研究会仮面劇研究部会、衣笠キャンパス	増田和子
36	KIM, Wooja	『日常生活に埋め込まれたマイクロアグレッション』が日本社会に与えたインパクトとその意義	2021年12月	第41回 国際シンポジウム「差別と心理学：マイクロアグレッションを理解し、日本社会の変革につなげる」(オンライン)	
37	김우자 (KIM, Wooja)	실태조사에 나타난 제일조선인 여성의 삶 : 코로나19 팬데믹 상황과 복합적 차별	2021年12月	2022년도 제2회 국제심포지엄 "일본의 문화 권력과 서벌턴 : 여성(女性)·예인(藝人)·죄수(囚人)"(オンライン)	
38	岩川ありさ	トランスジェンダー差別に抗して：インターセクショナリティとフェミニズム	2021年7月	国際言語文化研究所ジェンダー研究会主催、連続企画フェミニズム×トランスジェンダー 第1回	
39	堀江有里	日本社会と性的マイノリティの〈包摂〉の限界——家族・市場・国家	2022年1月	ふえみ・ゼミ連続講座：メインストリーム化するLGBT運動への警鐘	
40	岡田桂	トランスジェンダーアスリートとスポーツにおける性別二元制	2021年6月	成城大学グローバル研究センター主催シンポジウム『ポストヒューマニティ時代の身体とジェンダー/セクシュアリティ』	杉山文野
41	岡田桂	性の境界とスポーツ：セックスかジェンダーか？	2021年9月	国際言語文化研究所ジェンダー研究会主催、連続企画フェミニズム×トランスジェンダー 第2回	
42	竹中悠美	「ゼロ世代」WEBコンテンツ保存プロジェクト	2021年7月	ARC Days 2021, 立命館大学アート・リサーチセンター、京都 (オンライン開催)	向江駿佑, 森敬洋, Moon Jhee, Zhang Yixin
43	竹中悠美	「ゼロ世代」WEBコンテンツ保存プロジェクト	2022年2月	2021年度研究成果発表会、立命館大学アート・リサーチセンター、京都 (オンライン開催)	向江駿佑, 森敬洋, 中村結衣 Moon Jhee, Zhang Yixin
44	山本真紗子	「明治期の東山の変化と美術商の活動」	2021年10月	京大文学部人文科学研究部・第33回「近代京都と文化」研究班、オンライン、	
45	藤本流位	トーマス・ヒルシュホーンの《パタイユ・モニュメント》における暴力の再考	2021年10月	第72回美学学会全国大会若手フォーラム、東京大学 (オンライン開催)	
46	藤本流位	ドクメンタ11におけるトーマス・ヒルシュホーン	2021年10月	国際言語文化研究所重点プログラム「風景・空間の表象、記憶、歴史」第4回例会、立命館大学 (オンライン開催)	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	国際言語文化研究所・研究所重点プロジェクト、第1回研究会「ジェノサイドと復讐の論理」 発話者：野村真理・田中壮泰	衣笠キャンパス創思館+オンライン	2021年12月	30名	
2	国際言語文化研究所・研究所重点プロジェクト、第2回研究会「絡まり合う差別と暴力：『黒人と白人の世界史』『アフリカ文学講義』を通じて考える」 発話者) 中村隆之・福島亮	衣笠キャンパス中川記念会館+オンライン	2022年1月	30名	
3	重点研究プロジェクト「世界/日本文学の展開とモダニティ」イタリアにおけるモダンとアヴァンギャルドの相克II	オンライン	2022年3月	20名	
4	フォークテイル研究会	オンライン	2021年8月	7名	
5	仮面劇研究会	衣笠キャンパス+オンライン	2021年9月	12名	
6	国際言語文化研究所連続講座「〓病、との接触—災厄を記憶する」第3回「災厄を伝える民うた・民がたり—震災・戦争・パンデミック—」	オンライン	2021年10月	81名	立命館大学国際言語文化研究所
7	フォークテイル研究会	オンライン	2022年2月	6名	
8	ヴァナキュラー文化研究会「ヴァナキュラー文化と世界の子どもたち」	オンライン	2022年3月	35名	
9	仮面劇研究会	衣笠キャンパス+オンライン	2022年3月	14名	
10	連続企画フェミニズム×トランスジェンダー 第1回「トランスジェンダー差別に抗して：インターセクショナルリティとフェミニズム」	オンライン	2021年7月	310名	
11	連続企画フェミニズム×トランスジェンダー 第2回「スポーツとトランスジェンダー」	オンライン	2021年9月	122名	
12	連続企画フェミニズム×トランスジェンダー 第3回「韓国におけるトランスジェンダーの現状：法制度と市民社会」	オンライン	2021年11月	55名	
13	連続企画フェミニズム×トランスジェンダー 第4回「トランスナショナルな運動としてのトランスフォビア」	オンライン	2021年12月	332名	
14	「女性」の観点から考察する日韓社会の課題」日韓国際シンポジウム	立命館大学衣笠キャンパス(存心館：ZS201)およびオンライン	2021年8月	200名	立命館大学東アジア平和協力研究センター、立命館大学国際言語文化研究所ジェンダー研究会 協力：立命館大学コア研究センター、立命館大学アジア・日本研究所
15	『「アジア芸術学」の創成』オンライン展覧会めぐりあいアジア—芸術の移動・想像・創成—ギャラリー・トーク	オンライン	2022年3月	約30名	立命館大学アジア・日本研究所
16	1990年代後半以降の美術フェスティバルの増加とグローバリズム・文化行政	オンライン	2021年12月	13名	
17	ドイツにおける都市再開発事業と現代アート—BUGA ゲルゼンキルヒェン 1997 を手がかりとして—	オンライン	2022年1月	10名	
18	声としての彫刻—ドクメンタのヨーゼフ・ボイス	オンライン	2022年2月	10名	

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	野村真理	書評 デイヴィッド・アーミティージ著『内戦の世界史』、岩波書店、2019年	『西洋史学』第271号 pp.108-110	2021年6月
2	内藤由直	身体の“病”と、社会の“病”—葉山嘉樹「淫売婦」を読む	大阪大学大学院文学研究科・立命館大学文学部 大阪・京都文化講座オンライン	2021年6月7日
3	栗山雄佑	【フォーラム 引揚げ再考】戦時沖縄の女性たち（誌上参加コメント）	『植民地文化研究』（20）pp.41-42	2021年10月

4	田浦秀幸	英会話学習を楽しむ	読売新聞くらし・家庭面	2021年11月18日
5	田浦秀幸	バイリンガルの脳科学研究から考える効果的なバイリンガル教育	ワールド・ファミリー バイリンガルサイエンス研究所取材	2021年7月14日
6	田浦秀幸	英語を本気で武器にする！日本の学校の取り組み	Spring 誌#58(シンガポール発グローバル教育を考える本格的教育マガジン)取材	2021年4月
7	田浦秀幸	応用言語学分野におけるバイリテラシー研究の方向性	第1言語としてのバイリンガリズム研究会第23回研究会(招待基調講演)	2021年10月24日
8	滝沢直宏	コーパスが暴く言語の慣習性	立命館大学・言語教育情報研究科(ZOOM)・学術講演会	2021年11月13日
9	ウェルズ恵子	黒人差別 闘う米ミュージシャン	朝日新聞文化面「黒人差別 闘う米ミュージシャン」(取材協力)	2021年5月25日
10	坂下史子	インタビュー「米国の知られざる虐殺事件 裕福な黒人居住区は壊滅した」	朝日新聞デジタル版	2021年7月27日
11	坂下史子	寄稿「ブラック・ライヴズ・マターとは何(だったの)か—現在進行形の運動を理解するために」	『明日へ』第65号、東京人権企業連絡会(pp.8-11)	2021年11月
12	岡本広毅	アーサー王と円卓の騎士たち～忠節の騎士ガウェインと追憶のキャメロット～	NHK 文化センターオンライン講座(町田教室)	2021年8月29日
13	岡本広毅	「英国ファンタジーの原石を探そう！アーサー王やペーオウルフの世界」(全4回)	NHK 文化センターオンライン講座(柏教室)	2021年7月23日～9月3日
14	加藤昌弘	英国の食文化革命：何を食べて生きるのか 英国の食文化に学ぶ	愛知県知多市・東部町づくりセンター	2021年7月11日
15	加藤昌弘	独立運動は「わがまま」か「正義」か？：日本の新聞メディアの中でつながるスコットランドと琉球・沖縄	『静岡県立大学 広域ヨーロッパ研究センター』オンライン(静岡県立大学)	2021年11月4日
16	KIM, Wooja	マイクロアグレッション—日常生活に埋め込まれた無自覚の差別—	2021年度春季人権週間プログラム(立教大学(オンライン))	2021年7月
17	KIM, Wooja	マイクロアグレッションとは何か：日常に埋め込まれた無自覚の差別を考える	京都府立桂高等学校 教職員人権研修会(京都府立桂高等学校(京都市西京区))	2021年11月
18	KIM, Wooja	マイクロアグレッションとは何か：無自覚のレイシズムを考える	2021年度SDGs研修II～マイクロアグレッションとは何か～(立命館大学附属校(オンライン開催))	2021年11月
19	KIM, Wooja	マイクロアグレッション—日常生活に埋め込まれた無自覚の差別—	国際基督教大学第24回人権セミナー(zoom(オンライン))	2021年12月
20	KIM, Wooja	マイクロアグレッションを考える —日常のなかの無自覚な差別—	大阪府人権総合講座(後期・人権問題科目群)(大阪府大阪市(オンライン))	2022年2月
21	堀江有里	LGBTQ+と宗教	日韓YWCA ニュースカンファレンス 2021 基調講演	2021年9月
22	竹中悠美	被災美術品と向き合う 石内都の新作に見る一つのかたち	大阪日日新聞9面	2021年7月8日
23	竹中悠美	展覧会評 美術いま関西で 91：スナッフ写真の中のアフガニスタン—中山博喜写真展「水を招く」	大阪日日新聞9面	2021年10月26日
24	山本真紗子	明治時代・外国人たちの日本美術収集	大津市歴史博物館 れきはく講座・日本フェノロサ学会提供講座、大津市歴史博物館	2022年3月24日
25	山本真紗子	占領期京都のカラー写真が呼び起こすさまざまな声	『民族芸術学会誌 arts』vol.38、2022年3月、pp162-164	2021年10月
26	山本真紗子	「海外進出以前の山中商会」(インタビュー)	『目の眼』2021年12月号、p.48	2021年10月
27	仲間裕子	「幻想的な崇高 想像力を刺激」のインタビュー記事	NIKKEI The Style(日本経済新聞)	2022年2月7日
28	西林孝浩、佐藤弘隆、金子貴昭、東野陸、三須祐介、廣澤裕介、竹中悠美、枝木妙子、張憲、藤本流位	『『アジア芸術学』の創成オンライン展覧会めぐりあいアジア—芸術の移動・想像・創成—』ギャラリートーク	立命館大学(オンライン開催)	2022年3月6日
29	藤本流位	「転生」の予行練習 —「写真は変成する 2 BLeeDinG eDgE on PoST/pHotOgRaphy」京都芸術大学 写真・映像コース選抜展 KUAP&V	瓜生通信ウェブサイト	2022年3月29日
30	藤本流位	水に溶ける骨—佐貫絢郁《Soap and Placebo》について	佐貫絢郁ウェブサイト	2022年3月1日

31	藤本流位	トーマス・ヒルシュホーンに捧げるための省察	『MUTANT(S) on POST/PHOTOGRAPHY』 artbeatpublishers, pp.14-20	2021年7月
32	藤本流位	美術いま関西で(77) ピピロッティ・リスト: Your Eye is My Island —あなたの眼はわたしの島—	大阪日日新聞 (8面)	2021年4月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	松田佑治	日本英語学会	2021年度日本英語学会第39回大会優秀発表賞	「同等比較構文におけるas節内の形容詞主語の語彙範疇: as happy as happy can be を事例に」	2021年12月
2	鶴野祐介	日本児童文学学会	第45回日本児童文学学会特別賞	『子どもの替え唄と戦争 笠木透のラスト・メッセージ』(子どもの文化研究所2020年7月) に対して	2021年11月
3	河原典史	地域漁業学会	地域漁業学会賞	『カナダにおける日本人水産移民の歴史地理学研究』古今書院	2021年11月

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	西成彦	「ホロコースト文学」における語圏間の隣接性に関する比較文学的研究	基盤研究(C)	2020年4月	2024年3月	代表
2	佐久間寛	負債の動態をめぐる比較民族誌的研究: アジア・アフリカ・オセアニア農村社会を中心に	基盤研究(B)	2019年4月	2024年3月	代表
3	中村隆之	両大戦間期パリにおける環大西洋文学の形成をめぐる語圏・地域横断的研究	基盤研究(C)	2019年4月	2024年3月	代表
4	寺尾智史	カタルーニャ独立問題に伴う言語多様性継承政策のパラダイムシフトに関する研究	若手研究	2018年4月	2024年3月	代表
5	野村真理	もの、語り、アート、宗教にみるトラウマ体験の共有と継承: ホロコーストと原爆投下	挑戦的研究(開拓)	2020年4月	2023年3月	代表
6	野村真理	第二次世界大戦以前の中東欧・ロシアにおける反ユダヤ主義・ユダヤ人迫害の比較研究	基盤研究(B)	2020年4月	2023年3月	分担
7	野村真理	イギリスにおける第二次世界大戦の経験、記憶と「戦後」の形成	基盤研究(B)	2021年4月	2024年3月	分担
8	中川成美	世界文学と日本文学—情動理論の共有を基礎として	基盤研究(C)	2020年4月	2024年3月	代表
9	内藤由直	プロレタリア文化運動研究: 地方・メディア・パフォーマンス	基盤研究(B)	2018年4月	2023年3月	分担
10	河原典史	バンクーバー大都市圏の日本人ガーディナー: 技術革新にともなう庭園・造園業の展開	基盤研究(C)	2020年4月	2025年3月	代表
11	土肥秀行	イタリア戦争捕虜「収容所文学」研究—「捕虜の世界史」構築にむけて	基盤研究(C)	2021年4月	2024年3月	代表
12	田浦秀幸	日英バイリンガルの言語習得と喪失メカニズム探索 fNIRS 研究	基盤研究(B)	2019年4月	2023年3月	代表
13	有田節子	推論過程の言語化における地域語のダイナミクスに関する研究:九州方言を中心に	基盤研究(B)	2019年4月	2024年3月	代表
14	滝沢直宏	英語のly副詞の記述的研究および副詞辞典編纂のための辞書学的研究	基盤研究(C)	2019年4月	2023年3月	代表
15	田浦秀幸	バイリンガル幼児の言語と心と認知の発達についての縦断的検討	基盤研究(C)	2020年4月	2025年3月	分担
16	田浦秀幸	日英バイリンガルのアイデンティティ研究	基盤研究(C)	2019年4月	2024年3月	分担
17	田浦秀幸	上海地区の新人英語教育に対する研修と成長	基盤研究(C)	2017年4月	2023年3月	分担
18	ウェルズ恵子	ミンストレルショーと初期ミュージカルの研究: 舞台芸能交流の観点から	基盤研究(C)	2018年4月	2022年3月	代表
19	坂下史子	アメリカ合衆国におけるリンチの歴史の記憶化に関する包括的研究	基盤研究(C)	2019年4月	2023年3月	代表
20	安保寛尚	アフロキューバ主義における混血アイデンティティの言説形成プロセスの解明	基盤研究(C)	2018年4月	2023年3月	代表

21	岡本広毅	J. R. R. トールキンの中世英語英文学研究と「ファンタジー」創作を巡って	若手研究	2019年4月	2022年3月	代表
22	西山淳子	時間と相の副詞の意味論・語用論に関する日英対照研究	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	代表
23	吉田恭子	英語圏モダニズム文学における複数の時間性に関する包括的研究	基盤研究(B)	2020年4月	2024年3月	分担
24	吉田恭子	冷戦期東アジアにおける創作教育、文学、大衆文化	国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化(B))	2019年4月	2023年3月	分担
25	吉田恭子	冷戦期創作科教授哲学と20世紀アメリカ文学の研究:自由陣営文学における自己検閲	基盤研究(C)	2018年4月	2022年3月	代表
26	岡田桂	スポーツにおけるLGBT「主流化」の傾向とその問題点に関する研究	基盤研究(C)	2019年4月	2023年3月	代表
27	岡田桂	「エンパワメント」言説/表象からみる女性スポーツ政策の政治性に関する研究	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	分担
28	二宮周平	親の別居・離婚における子の権利保障システムの構築	基盤研究(C)	2019年4月	2023年3月	代表
29	泉谷瞬	プロレタリア文化運動研究:地方・メディア・パフォーマンス	基盤研究(B)	2018年4月	2023年3月	分担
30	川端美季	近代日本における清潔規範の創出と展開	基盤研究(C)	2021年4月	2024年3月	代表
31	KIM, Wooja	離散民の祖国志向の歴史・社会的構築性に関する研究	基盤研究(C)	2018年4月	2022年3月	代表
32	川端美季	帝国日本の植民地における衛生規範の確立—公衆浴場の普及に注目して	若手研究	2018年4月	2022年3月	代表
33	木村朗子	震災後文学の研究と国際研究ネットワークの構築	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	代表
34	堀江有里	日本におけるキア神学の文脈化をめぐる研究——「解放の神学」アプローチの可能性	基盤研究(C)	2017年4月	2022年3月	代表
35	姫岡とし子	近代ドイツのナショナリズムとさまざまな女性運動—日本のフェミニズムも含めて	基盤研究(C)	2017年4月	2022年3月	代表
36	RAJKAL, Zsombor Tibor	家族変動と個人化に関する社会学的な言説の国際比較研究:ユーラシア地域を事例に	基盤研究(C)	2018年4月	2023年3月	代表
37	鳥山純子	イスラーム・ジェンダー学と現代的課題に関する応用的・実践的研究	基盤研究(A)	2020年4月	2024年3月	分担
38	鳥山純子	ポスト・アラブの春時代における中東ムスリムのグローバル移動と社会関係の複合的再編	国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化(B))	2019年10月	2024年3月	分担
39	鳥山純子	感情労働の地域・階級間比較にみる「近代家族」、フェミニズム思想の越境性とその限界	基盤研究(B)	2018年4月	2022年3月	分担
40	鳥山純子	2011年革命後エジプト都市部における「ろくでなし」社会研究	若手研究	2020年4月	2024年3月	代表
41	OUYANG, Shanshan	交差性を基盤とした運動とその連帯——日台における「障害のある性的少数者」運動を事例に	特別研究員奨励費	2020年4月	2023年3月	代表
42	松本克美	性的被害に対する損害賠償請求権の消滅時効論—解釈論・立法論の現代化	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	代表
43	柳原恵	チリ先住民マプーチュエの女性運動の歴史と現在—ジェンダーとエスニシティの視点から	若手研究	2019年4月	2023年3月	代表
44	中川成美	世界文学と日本文学—情動理論の共有を基礎として	基盤研究(C)	2020年4月	2024年3月	代表
45	Kim, Wachutka Jackie	Multi-ethnic Aging and Cultural Needs Within Japan's Long-Term Care Insurance System	基盤研究(C)	2019年4月	2023年3月	代表
46	岡野八代	ケアの倫理の再定位をめざす研究:ネオ・リベラリズムに対抗する公的規範として	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	代表
47	竹中悠美	中断された生の残像:写真の展示における美学と倫理の問題	基盤研究(C)	2017年4月	2023年3月	代表
48	仲間裕子	風景と近代的メランコリーの美学	基盤研究(C)	2021年4月	2025年3月	代表
49	仲間裕子	近代美術における死生観の研究〜ヴェネチアス研究を中心に	基盤研究(B)	2020年4月	2024年3月	分担
50	高橋秀寿	時間/空間の変容の分析による現代ドイツの歴史的特性の解明	基盤研究(C)	2020年4月	2022年3月	代表
51	仲間絢	ドイツ・ゴシック彫刻と『雅歌』の花嫁神秘主義	特別研究員奨励費	2019年4月	2022年5月	代表
52	仲間絢	『雅歌』の花嫁神秘主義の美術史学研究	若手研究	2021年4月	2026年3月	代表

